

柿野住民自治協議会たより

柿野住民自治協議会報

第30号

令和7年2月発行
編集制作: 柿野住民自治協議会
事務局: 松阪市飯南町横野848
飯南産業文化センター内

柿野住民自治協議会は「みんなが安全で安心して暮らせる町、柿野」～夢のある柿野、住んでいて楽しい柿野、いつまでも住みたい柿野～を目指して活動しています。

柿野支援隊

地域で元気に活動中！

令和6年度 ^の延べ22人が利用し、活動時間は130時間に

地域のお年寄りを元気な者が支える「柿野支援隊」が発足して3年目を迎えます。令和6年度は2月現在で80歳以上のお年寄りの^の延べ22人が支援隊を利用し、協力隊員延べ63人が出動して生垣の^{せんてい}剪定、粗大ごみの処理、年末清掃、草刈の各作業を行いました。総支援時間は130時間にも及びます。活動は完全に軌道に乗り、過疎化に悩む地域に欠かせない存在となりつつあります。

「柿野支援隊」は高齢化が進む私たちの地域で、お年寄り世帯が安心、安全に暮らせるよう、立ち上げた「住民による住民のための助け合い組織」です。共助の精神が地域に根付き、この活動がいつまでも続くよう、皆様のご理解、支援をよろしくお願いします。



(生垣の^{せんてい}剪定作業)



(年末清掃作業)



(草刈作業)

柿野支援隊を支える賛助会員募集中！

＜賛助会員とは＞

支援隊の円滑な運営のため、個人、事業者に出資をお願いするもので、個人は1口1000円、事業者は1口5000円を募っています

＜運営状況＞

支援隊の運営資金は柿野住民自治協議会からの助成金10000円と、利用者からいただく1時間当たり500円の利用料金のうち、運営費として入る100円だけです。本来、支援隊で用意すべき作業道具、消耗品などの負担は支援協力隊員の善意に頼っている状況で、今後、利用者が増えていくと費用がかさみ、現在の予算額では運営できなくなります。柿野支援隊活動の趣旨に賛同される皆様方の支援をよろしくお願いします。

★支援隊がする仕事

粗大ごみの処理 家周辺の掃除、除草 電球交換 家の軽微な補修など（引き受ける作業内容はコーディネートが自宅を訪問して検討のうえ決定します。危険な作業や業者レベルの依頼は断る場合があります）

★利用できるのは

柿野地域に住む80歳以上の世帯や障害者。またはコーディネーターが支援を必要と認めた方です

★利用料金

支援協力隊員1人につき、1時間当たり500円（30分当たり250円）運搬交通費は1口につき200円

★利用方法

まず、利用会員に登録していただきます。柿野住民自治協議会事務局（090・5769・6948）に電話するか、各組自治会長、民生児童委員に申し込んで登録し、そのうえで、作業の依頼を申請してください

支援協力隊員には1時間当たり400円の報酬を支払います

柿野支援隊

地域のお年寄りをみんなで支えよう！



※賛助会員加入申し込み方法などは柿野住民自治協議会事務局（090-5769-6948）までお問い合わせください。



敬老の日のプレゼントを横野6番組の森自治会長から受け取る佐川さん（左）

を届けました。佐川敏一さん宅では、森自治会長が「敬老の日のプレゼントです」と言って紙袋に入った洗剤などを手渡し、佐川さんは「ありがとう」と、笑顔で受け取っていました。

環境福祉部会は令和6年9月16日の敬老の日の事業として前日の15日、深野、横野地区に住む80歳以上の住民211人に長寿を祝う記念品をプレゼントしました。

毎年、生活に役立つものを選んで贈呈している事業で、今年は松阪市指定ごみ袋、洗濯用洗剤、食器洗剤の3点セット。柿野住民自治協議会長のお祝いの言葉も添えました。対象は深野地区128人、横野地区83人。昨年より8人少なくなりました。配布は各組自治会長にお願いしました。

横野6番組の森功・自治会長は組内に住む9人の対象者にプレゼン

敬老の日に記念品を贈呈

深野、横野の211人に

「安心安全に生活するために！」

松阪警察署柿野駐在所の大野警部補が講演



犯罪や災害、交通事故の被害に遭うことなく安全に安心して暮らすための注意点を話す大野警部補
(飯南産業文化センターで)

自治部会は令和6年9月18日、飯南産業文化センターで「安心・安全暮らし講習会」を開きました。講師は松阪署柿野駐在所の大野直彦警部補で、お年寄りら41人が、安心して安全に暮らすために注意することを学びました。

大野警部補は最初に、警察の階級や交番と駐在所の違いなどについて説明。県警本部長の階級は警視長で三重県警察の採用ではなく、警察庁のキャリア職員が就任する。また、交番は詰めるだけで、駐在所は住み込みで勤務する違いがあると話されました。

「税金の還付金がある」などと電話で言葉巧みにお金をだまし取る特殊詐欺は三重県内で今年1月から7月末までに152件発生し、約3億2000万円がだまし取られたと報告。対策として留守番電話に設定してすぐに電話に出ないことなどと、注

意を促しました。

また、災害への備えを万全にすることや交通事故防止のための注意点などを話し、平成23年3月、上仁柿の峠で発見されたひき逃げ遺棄致死事件はいまだ、未解決であることから「事件に関係して気が付いたことがあれば通報してほしい」と、捜査への協力をお願いされました。参加者との意見交換では、柿野神社から飯南ひまわりこども園に至る旧道は子供たちの通学路なのに、朝夕、車がかなりのスピードで走っているのが危ない。何とか規制できないか、といった要望が出ていました。

自分の命は自分で守る！

住民総出で防災訓練

「災害が発生したら、自分たちの命は自分たちで守ろう！」と、自治会部会は令和6年10月20日、消火栓を使った消火訓練と救急救命訓練を行いました。

深野地区は来迎寺周辺と中村集会所で行われ、東村など8組の自治会から約50人の住民が参加。松阪市消防団飯南方面団柿野分団員の指導で防火水槽を使った放水訓練と市道の消火栓にホースを接続する訓練を行いました。また、中村集会所では松阪地区広域消防組合職員の指導で人工呼吸による心肺蘇生法と、電気ショックで心臓を再鼓動させるAED（自動体外式除細動器）の使い方を学びました。放水訓練で筒先を持った女性性は「重い！水圧がすごい」と言いながら、真剣な表情で放水していました。この後、中村集会所で「防災を考え集い」が開かれ、出口健太区長が松阪市の防災指導冊子をもとに震災、台風、集中豪雨による災害で避難する際に持ち出すもの、避難場所など命を守る対策を説明。「防災について日ごろから高い意識を持ち、いざというときに役立ててほしい」と参加者に訴えました。



放水訓練で火災発生に備える住民のみなさん
(深野で)

横野地区では旧町民センター周辺で消火栓へのホース接続、放水訓練をして火災の発生に備えました。1〜7番組の自治会長が参加し、消防団員の指導で消火栓へのホース接続の仕方や放水を体験しました。

3 世代 57 人が熱戦を展開

飯南公民館共催第5回グラウンドゴルフ大会



集中して競技に臨む参加者のみなさん
(飯南グラウンドで)

環境福祉部会は第5回グラウンドゴルフ大会を令和6年10月19日、飯南高校隣の飯南グラウンドで開きました。松阪市飯南公民館との共催事業で、仁柿のチームや深野子供会など11チーム57人が出場し、熱戦を展開しました。優勝はホールインワンを2度達成した樹下正さん（新緑会B）で、スコアは2位に6打差をつける圧勝でした。

この日は前日の雨の影響が残ってコートが柔らかく、グラウンドコンディションはよくなかったが、参加者はボールの転がり具合を見ながら少ない打数でのカップインを目指しました。参加者の年齢は11歳から94歳までと幅広く、世代交流しながら楽しくプレーしていました。成績は同打数の場合、年齢が上の人を上位として順位を決めました。

10位までの成績は次の通り（敬称略）

- ①樹下正 30（新緑会B） ②和田幸也 36（仁柿A） ③筒井彰嗣 37（新緑会B） ④山本あけみ 38（仁柿B） ⑤野呂和貴 39（新緑会C） ⑥西川敏夫 40（仁柿A） ⑦吉田春巳 40（柿野住協A） ⑧村林由美子 40（同B） ⑨久保秀夫 41（新緑会A） ⑩竹岡登志子 41（仁柿B）

金メダリストがストレッチ指導

土性沙羅さんの出前講座



土性さん（中央）の指導で筋トレに励む参加者のみなさん（飯南産業文化センターで）

リオデジャネイロオリンピック女子レスリング金メダリストで松阪市職員の土性沙羅さんによる出前講座「さら☆トレ楽ちん講座」（柿野住民自治協議会主催）が令和6年11月6日、飯南産業文化センターで開かれました。スポーツ好きの35人が参加し、土性さんの指導でストレッチに励みました。

土性さんは松阪市出身で平成6年生まれの30歳。現役引退後、市職員になり、小中学校で出前授業を行うなど、市民スポーツ振興事業に携わっています。

参加者から拍手で迎えられた土性さんは「新しいことにチャレンジする」をモットーに活動し、趣味はアニメ、音楽、絵を描くことなどと自己紹介をしました。

ラジオ体操で体をほぐした後、手足の運動やマットを敷いて腹筋など基礎体力を維持するためのストレッチ法をやさしく指導しました。参加者は「簡単な運動だけど、きつい！」と言いながら汗をかくほどに運動し、体を鍛えていました。



ミルクレープづくりを楽しむ

お菓子づくり教室



星野さん（真ん中）の指導でミルクレープづくりを楽しむ参加者のみなさん（飯南産業文化センターで）

環境福祉部会は令和6年12月5日、飯南産業文化センター調理室で「お菓子作り教室」を開きました。親子連れなど21人が参加し、クリスマスで家族そろっておいしく食べられる洋菓子「ミルクレープ」を手作りしました。

講師は飯南町粥見の菓子店「甲子軒」のパティシエ、星野美沙希さん。クレープを8枚焼き、スポンジの上に生クリーム、スライスしたイチゴ、クレープを順番に乗せ、これを3段重ねるとミルクレープの出来上がり。まず、星野さんが見本となるミルクレープを作り、参加者が見学した後、5班に分かれてフライパンでクレープを焼きました。おいしいミルクレープになるかどうかは、このクレープの薄さと焼き加減がポイント。「これぐらいでどうかしら？」などと皆で相談しながらクレープを焼いていました。スポンジと生クリーム

は星野さんが用意し、参加者は楽しく盛り付け、「クリスマスにはこれを作ってみます」と笑顔で話していました。

あなたが人の命を救う！

救命講習会に主婦ら 15 人参加



人工呼吸と AED の使い方を学ぶ参加者のみなさん
(飯南体育センターで)

人が倒れ、息をしていないときに素人ができる心肺蘇生法や AED(自動体外式除細動器)の使い方を学ぶ救命講習会が令和 6 年 11 月 13 日、飯南体育センターで開かれ、主婦ら 15 人が松阪地区広域消防組合職員から応急手当の方法を学びました。

これまで、柿野住民自治協議会の役員だけが参加していましたが、救命方法を広く多くの人に知ってほしいと、今年は一般に参加を呼び掛けて開かれました。

参加者は、講習会用の人形の胸を手で押す胸骨圧迫の人工呼吸法や AED を開いて電極パッドを胸に貼り付け、電気ショックで心臓を再鼓動させる手順を学びました。指導した消防職員は、「これまで息をしているかの確認を顔に近づけてしていましたが、新型コロナウイルスの流行後はやめて、胸の動きで確認するように、また、口対口の人工呼吸はしないように指導しています」と注意を促していました。

小さな親切で表彰

地道にごみ拾い活動をする坂口さん



小さな親切運動で表彰された坂口さん

松阪市「小さな親切」運動推進本部(本部長・竹上真人市長)の第 110 回善行者表彰式が令和 6 年 12 月 14 日、松阪市船江町の松阪公民館で行われ、柿野住民自治協議会推進委員の坂口さよ子さん(5 番組)が「豊かな自然と美しい郷土をつくることに努められている善行部門」で表彰されました。

坂口さんは、日ごろからごみ袋を手に通学路やグラウンドゴルフコートに落ちているごみを拾い集めて清掃しているほか、集会所広場のプランターに花を植えるなど、地域の美化にボランティアで取り組んでおり、その地道な活動が今回評価されました。

正月を彩る色とりどりの花

年末恒例の寄せ植え教室



杉本さん（右端）の指導で寄せ植えを楽しむ参加者のみなさん（飯南産業文化センターで）

自治会部会は年末年始の家庭に色を添える寄せ植え教室を令和6年12月22日、飯南産業文化センターで開きました。

講師は横谷で園芸業を営む杉本充さん。毎年恒例になった教室で花好きの主婦ら30人が参加し、色鮮やかな花の寄せ植えを楽しみました。今年の花はジュリアン、葉ボタン、ビオラ、パンジーとチューリップの球根3個。春にはチューリップが赤、黄色、ピンクの花を咲かす2度楽しめる趣向の寄せ植えで、参加者はそれぞれの花の特性を考え、バランスよく植えていました。杉本さんは肥料の粒玉3個を渡ししながら、「肥料の効果は2月ごろまでなので、また追い肥してください」と指導していました。



水本さん（左から3人目）の指導で風船のクリスマスツリーづくりを楽しむ親子連れ（飯南産業文化センターで）

教育文化部会は令和6年12月15日、飯南産業文化センターで「バルーンアートづくり」を開き、17組38人の親子が風船のクリスマスツリーづくりを楽しみました。

講師は元県職員で中部台公園にある「三重県立みえこどもの城」でイベント運営に携わっていた水本安雄さん（下仁柿）。バルーンアートの教室を開催して子供たちの指導をしていたことから、退職後もその活動をして子どもたちを楽しませています。

まず、最初に腕試しとして長い風船を使ってブードルを作った後、20個の丸風船を積み上げるツリーを作りました。力を入れすぎで「パーン、パーン」と風船が破裂する音が会場に響く中、慎重に大小の丸風船を軸に括り付け、最後にサンタクロースの絵の「Merry Christmas」とプリントされた大きな風船を取り付けて完成。子どもたちは「できた、できた」と大喜びし、家に持ち帰りました。

風船でクリスマスツリーづくり

バルーンアート教室

伝統工芸の深野和紙作り

歴史文化学習会で 23 人が体験



保存会員（左側）の指導で深野和紙を漉く参加者の皆さん
（飯南和紙和牛センターで）

教育文化部会は令和 7 年 1 月 24 日、歴史文化学習会を開き、23 人が深野の松阪市飯南和紙和牛センターで伝統工芸の深野和紙の製造を体験しました。

深野和紙は関ヶ原の戦い前年の 1599（慶長 4）年、庄屋の野呂市兵衛俊光が美濃（岐阜県）から紙漉き職人を招き、紙漉きを始めたのが始まり。紙の色が白くなる鉄分の少ない深野の水、南向きの斜面、コウゾ、ミツマタ、ガンピなどの原料が近くに生えているなどの地理的条件が合い、当時、250 戸が和紙を製造。紀州藩札（松坂銀札）の紙として有名になり、住民の生活を支える一大産業になりました。戦後衰退しましたが、1987（昭和 62）年に深野和紙保存会が結成され、現在に深野和紙の技術を伝承しています。1994（平成 6）年には三重県の第一次県伝統工芸品に指定されています。

体験教室では、製造工程のビデオを見て作り方を学んだあと、保存会員の指導で「かみすきコテ」という道具を使って紙を漉く作業を体験しました。作った紙はすぐ乾燥させ、それぞれ持ち帰りました。木の皮で作った和紙は木の幹で作った洋紙より強く、保存が効くため、柿野、粥見両小学校、飯南高校の卒業証書に使われています。



☆ 棚田を巡る健康ウォーキング

3 月 9 日（日）

深野・夏明棚田 1 周（約 3・5 キロ、45 分程度）

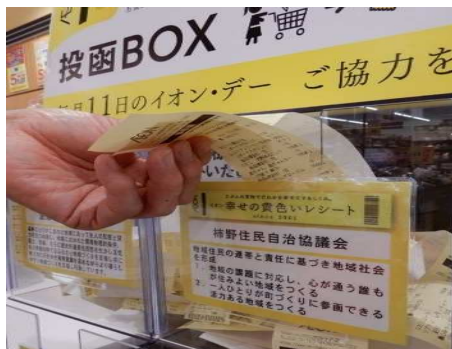
午前 8 時 30 分深野・宝泉寺下の棚田駐車場に集合

棚田保存会から農水省の「日本の棚田百選」に選ばれている深野棚田の歴史などについての話を聞く
参加希望者は 3 月 7 日までに柿野住民自治協議会事務局（090 5769 6948）まで申し込んでください



毎月 11 日は黄色のレシートを柿野住民自治協議会の BOX に投函を！

毎月 11 日にマックスバリュ各店で発行される黄色レシートを大石店に置いてある BOX に入れてください。レシート金額の 1 % が柿野住民協の事務用品代として助成支給されます



編集後記

大地震や集中豪雨の被災地映像を見て、いつも思う。自分が被災者だったらどうするか。家が倒壊し、家族が閉じ込められている。119番するか、市役所に電話するか。多分、電話は不通だろう。運よく通じたとしても、どちらも「今すぐ救助にいけない。しばらく待って」と言われるに違いない。近所の人の協力で家族を助け出したとしても、余震や土砂崩れが続く中、どこに逃げればいいのか。市のふれあいセンターが避難場所と聞いているが、道路が寸断されてたどりつけそうにない。今晚どこで寝ればいいのか。こんな時どうするか、まったく準備ができていない。絶対途方に暮れるだろう…。

南海トラフの大地震は今後30年の間に8割の確率で発生すると言われています。明日発生するかもしれない。その時に備えて「こんな手順で対応していこう」という地域防災計画策定の準備が柿野住民自治協議会で始まりました。みなが防災、減災意識を強く持つて協力し、早急に計画をまとめなければなりません。また、日ごろから訓練をして災害発生に備えなければ、路頭に迷うのは必至だと思います（こ）